

北陸地区 施設取材報告(2)

富山エコタウン（富山県富山市）

富山市はエコタウンプラン（環境と調和したまちづくり計画）を策定し、平成14年5月に、全国で16番目、北陸では初めてエコタウンとして承認された。今回は、その中核施設である「エコタウン工業団地」（富山県富山市海岸通）を訪れ、エコタウン交流センターで説明を受けた後、エネルギーセンター（石崎産業株式会社）とハイブリッド型プラスチックリサイクル施設（株式会社プリテック）を見学した。

■富山市エコタウン

エコタウン事業とは、ある産業から出るすべての廃棄物を新たに他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすることを旨とする『ゼロ・エミッション構想』を基軸に、地域の振興を図りながら、環境と調和したまちづくりを推進する事業である。

平成23年3月現在、エコタウン事業の承認地域は、北海道2地域、東北4地域、関東3地域、中部6地域、近畿2地域、中国四国6地域、九州3地域の、計26地域となっている。今回取材した富山市は、平成14年5月に、全国で16番目、北陸では初めての承認地域となった。

富山市では、既存の北部工業地帯にある工場跡地約18haを『エコタウン産業団地』として、資源循環拠点に位置づけている。このエコタウン産業団地に、リサイクル施設を集約するとともに、エネルギー利用も含め団地内のゼロ・エミッション化を進めている。

第一期事業として、平成15年度には、ハイブリッド型廃プラスチックリサイクル施設、木質系廃棄物施設リサイクル施設、生ごみ及び剪定枝のリサイクル施設、自動車リサイクルの4施設が操業を開始した。このことにより、マテリアルリサイクルを優先した地域内

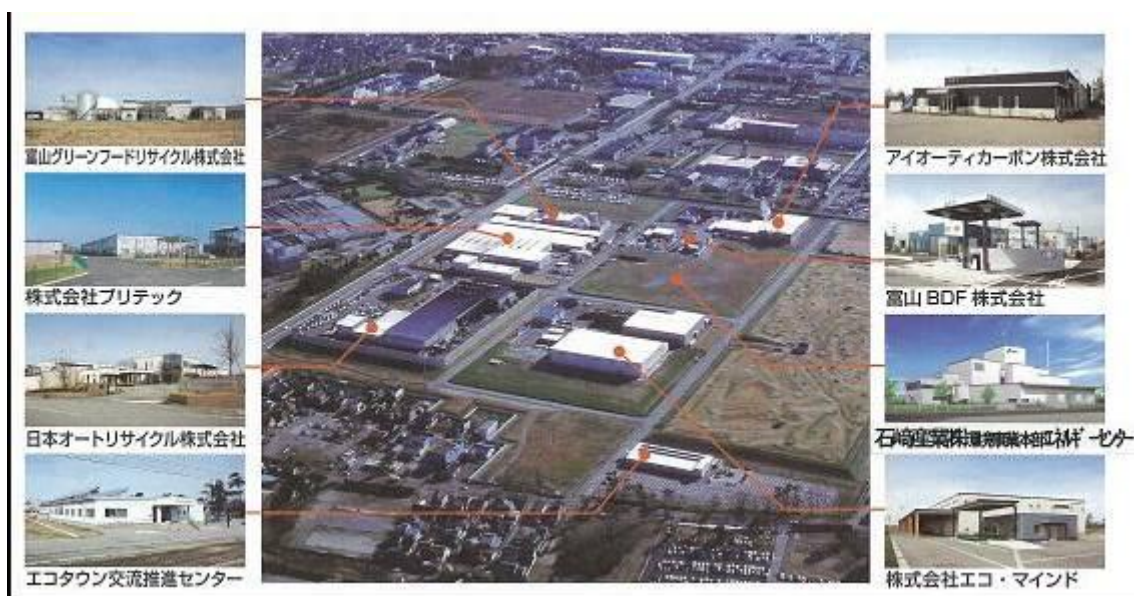


図-1 富山エコタウン産業団地全景 (*1)

での資源循環が前進した。

また、第二期事業として、平成17年度には廃合成ゴムリサイクル施設、平成18年度には難処理繊維及び混合廃プラスチックリサイクル施設、廃食用油リサイクル施設の3施設が操業を始め、これにより、現在7施設がそろい、サーマルリサイクルも含めた資源循環を推進している。

なお、エコタウン事業基本方針は、地域内循環を優先した資源循環施設の拠点整備を図り“人と環境にやさしい都市とやま”を実現することであり、以下6項目を掲げている。

1. 地域内での循環を優先した取組みの推進
2. 市民の活動を活かした、人と環境にやさしい都市とやまの実現
3. 素材の段階的再利用と廃棄物エネルギーの有効活用の促進
4. 事業性の考慮
5. 事業主体及び消費者との連携
6. 情報の公開

以下に、今回取材した2事業所を紹介する。

■石崎産業株式会社 環境事業本部 エネルギーセンター

マテリアルリサイクルが不可能な廃棄物を焼却処理すると同時に、廃熱を利用した蒸気ボイラ・タービンによる発電を行い、自社使用及び売電する。発電で使用した後の低温廃

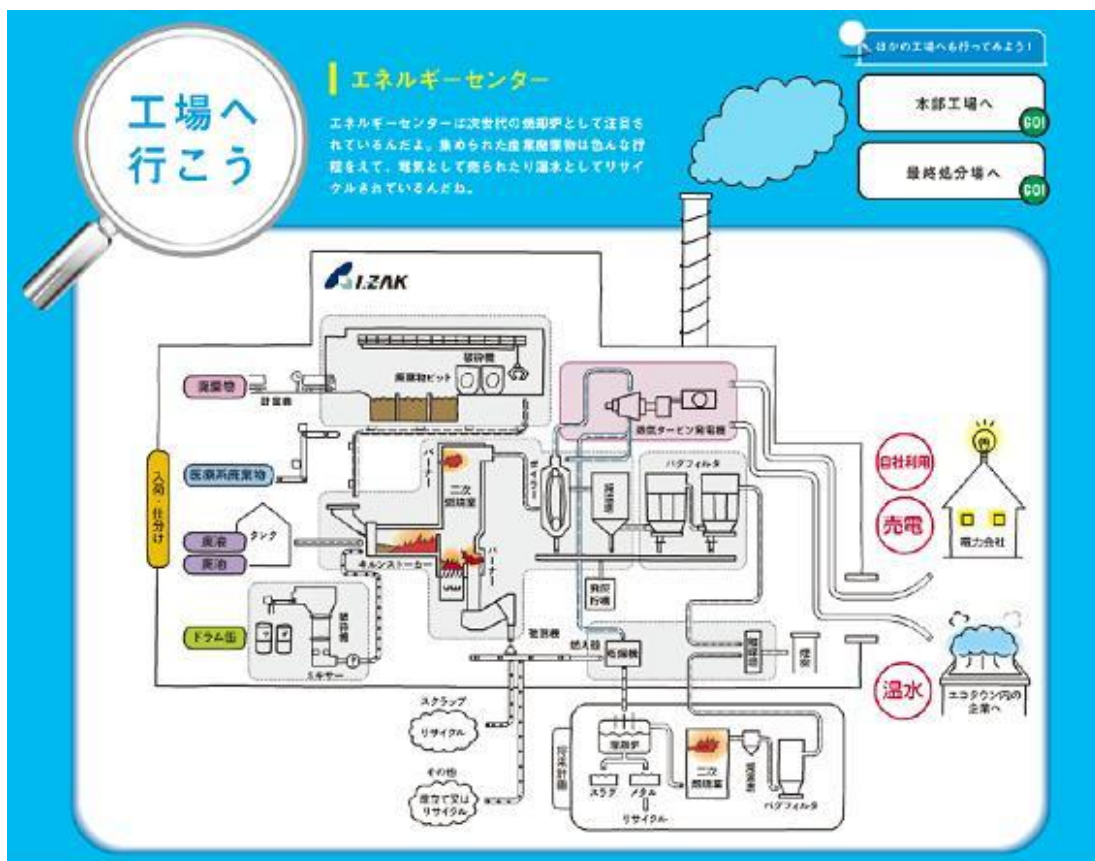


図-2 エネルギーセンター フロー図 (*2)

熱は温水として有効利用するなど、高温から低温までの廃熱を可能な限りカスケード利用する計画でCO₂の削減を図る。

- ・発電能力：4,000 kW
- ・温水供給：20 t/h (55°C)
- ・CO₂排出抑制：約 16,000 t/年
- ・原油削減効果：約 8,400 kl/年



図-3 エネルギーセンター外観 (*3)

■株式会社プリテック ハイブリッド型プラスチックリサイクル施設

容器包装リサイクル法により、分別回収されたプラスチックをプラスチック原材料と燃料油にリサイクルする。「材料（マテリアル）リサイクル」と「油化」という、異なる2つの技法をあわせ持つ、全国初のハイブリッド（複合）型プラスチックリサイクル施設で、それぞれの特徴を活かすことで廃棄物を削減し、リサイクル率向上と再生品の高品質化を実現している。



図-4 プリテック施設概要 (*4)

再生したプラスチック原材料や燃料油は、プラスチック成型メーカーをはじめとする企業などで使用されることで再び地域に還る。

再生したプラスチック原材料や燃料油は、プラスチック成型メーカーをはじめとする企業などで使用されることで再び地域に還る。

(*1) 富山市エコタウン～環境と調和するまちづくり計画～（富山市環境部環境政策課）

(*2) 石崎産業株式会社ホームページ

(*3) エネルギーセンター（アイザック石崎産業株式会社環境事業部）

(*4) PRTEC Ecotown Center（株式会社 プリテック）